

# データ分析の流れ

第4回

23j1-304

教科書 P106-P107

# この時間の目標

- データ分析の流れ
- S 統計的探究プロセスについてよく理解でき、探究で活用しようと思った
- A 統計的探究プロセスについてよく理解できた
- B 統計的探究プロセスについて理解できた
- C 統計的探究プロセスについて理解できなかった

# データ分析の流れ

# 1 問題の明確化と計画

- 問題の明確化(problem)
  - 目的や解決すべきことを具体的に
  - 正確に把握
- 計画(plan)
  - 収集分析するデータを絞り込む
  - 新たなデータを収集/既存のデータを利用

# 2データの収集

- データの収集(data)
  - 必要なデータを収集する
  - 表などに整理する

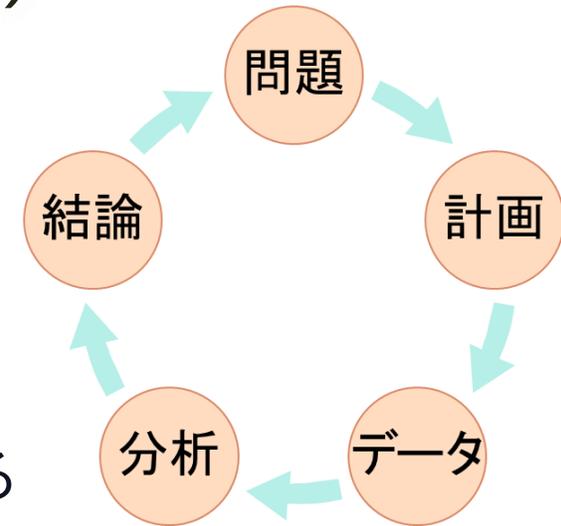
# 3 データの分析

- 分析 (analysis)
  - グラフで可視化
  - 代表値 (平均値・中央値・最頻値)
  - クロス集計
  - 仮説検定・相関係数・標準偏差
- 結論 (conclusion)
  - 目的とした問題の解決
  - 新たな問題の発見

# •統計的探究プロセス(数学 I 201ページ)

## •PPDACサイクル

- P(problem、問題)
  - 解決すべき事柄を把握し、統計で扱える問題を設定する
- P(plan、計画)
  - 設定した問題に対して、集めるべきデータとその集め方を考える
- D(data、データ収集)
  - 計画に従ってデータを集め、表などに整理する
- A(analysis、分析)
  - 目的やデータの種類に応じてグラフにまとめたり、データに関する数値を求めたりして、特徴や傾向を把握する
- C(conclusion、結論)
  - 見出した特徴や傾向から結論をまとめて表現したり、さらなる課題や改善点を見出したりする



# 仮説検定の考え方(数学 I 202ページ)

- ボールペンの新製品B
  - 30人に聞いてみた
  - BがAより書きやすい 21人
  - Bが書きやすいと言えるか
- 差がないと考えると
  - Aを選ぶ・Bを選ぶは0.5の確率
- コイン投げ30回で1セットとしてシミュレーション
  - 200セット繰り返す！
  - 6000回投げて正確に記録！

# 仮説検定の考え方(数学 I 202ページ)

- コイン投げ30回で1セットとしてシミュレーション
  - 乱数で0か1を生成
  - 1の数を加算すれば表の回数わかる

```
import random
x=0
for i in range(30):
    x=x+random.randint(0, 1)
print(x)
```

# 仮説検定の考え方(数学 I 202ページ)

- コイン投げ30回で1セットとしてシミュレーション
  - 200セット繰り返す！

数えるの  
面倒！

```
import random
def coin30():
    x=0
    for i in range(30):
        x=x+random.randint(0, 1)
    return x
a=[]
for j in range(200):
    a.append(coin30())
print(a)
```

コイン投げ30回の表の数

コイン投げ30回を200セット

[17, 13, 20, 20, 15, 19, 14, 17, 14, 20, 20, 16, 12, 16, 10, 11, 14, 19, 19, 13, 15, 19, 12, 17, 19, 17, 15, 15, 17, 14, 15, 18, 14, 14, 13, 12, 16, 20, 11, 14, 14, 14, 16, 13, 14, 13, 12, 11, 18, 20, 12, 16, 14, 14, 17, 16, 18, 13, 15, 11, 12, 14, 16, 17, 22, 14, 11, 18, 15, 18, 17, 12, 11, 16, 17, 15, 13, 15, 14, 16, 13, 16, 13, 14, 16, 19, 12, 16, 19, 14, 12, 13, 12, 17, 17, 17, 15, 14, 12, 16, 11, 14, 20, 17, 9, 14, 16, 15, 12, 10, 13, 12, 18, 19, 16, 9, 13, 15, 11, 13, 13, 12, 15, 12, 12, 16, 11, 17, 14, 16, 14, 14, 16, 17, 14, 20, 7, 13, 13, 13, 15, 16, 20, 17, 12, 13, 19, 17, 18, 13, 11, 14, 16, 12, 13, 19, 13, 14, 15, 11, 12, 15, 20, 14, 18, 14, 15, 18, 15, 16, 12, 23, 14, 12, 17, 13, 18, 15, 14, 15, 12, 17, 20, 17, 18, 9, 15, 12, 17, 15, 15, 15, 9, 14, 12, 21, 12, 13, 12, 18]

# 仮説検定の考え方(数学 I 202ページ)

- コイン投げ30回で1セットとしてシミュレーション
  - 200セット繰り返す！

0回: 0	7回: 1
1回: 0	8回: 0
2回: 0	9回: 4
3回: 0	10回: 2
4回: 0	11回: 11
5回: 0	12回: 26
6回: 0	13回: 23
7回: 1	14回: 31
8回: 0	15回: 24
9回: 4	16回: 21
10回: 2	17回: 21
11回: 11	18回: 21
12回: 26	19回: 12
13回: 23	20回: 10
14回: 31	21回: 11
15回: 24	22回: 1
16回: 21	23回: 1
17回: 21	24回: 1
18回: 12	25回: 0
19回: 10	26回: 0
20回: 11	27回: 0
21回: 1	28回: 0
22回: 1	29回: 0
23回: 1	30回: 0
24回: 0	
25回: 0	
26回: 0	
27回: 0	
28回: 0	
29回: 0	
30回: 0	

```
import random
```

```
def coin30():
```

```
    x=0
```

```
    for i in range(30):
```

```
        x=x+random.randint(0, 1)
```

```
    return x
```

コイン投げ30回の表の数

```
a=[]
```

```
for j in range(200):
```

```
    a.append(coin30())
```

コイン投げ30回を200セット

```
for k in range(31):
```

```
    print(k, '回:', a.count(k))
```

回数ごと集計して表示

# 仮説検定の考え方(数学 I 202ページ)

- コイン投げ30回で1セットとしてシミュレーション
  - 200セット繰り返す!
- シミュレーション結果
  - 21回以上は3回
  - 相対度数は  $\frac{3}{200} = 0.015$
  - 1.5%しか起きないことが起きた
    - 偶然起きるとは言えない
    - Bが書きやすいと考えられる

7回: 1  
8回: 0  
9回: 4  
10回: 2  
11回: 11  
12回: 26  
13回: 23  
14回: 31  
15回: 24  
16回: 21  
17回: 21  
18回: 12  
19回: 10  
20回: 11  
21回: 1  
22回: 1  
23回: 1

# 仮説検定の考え方(数学 I 202ページ)

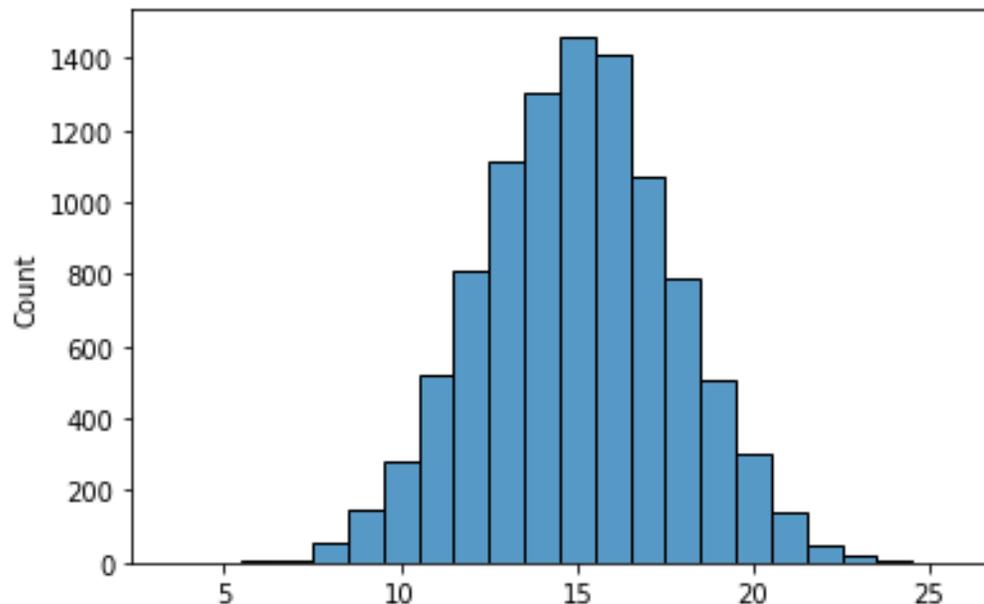
- シミュレーション結果
  - 21回以上は3回
  - 相対度数は  $\frac{3}{200} = 0.015$
  - 1.5%しか起きないことが起きた
- 滅多にないことが起きた
  - 一般的に5%を基準とする

7回: 1  
8回: 0  
9回: 4  
10回: 2  
11回: 11  
12回: 26  
13回: 23  
14回: 31  
15回: 24  
16回: 21  
17回: 21  
18回: 12  
19回: 10  
20回: 11  
21回: 1  
22回: 1  
23回: 1

# 仮説検定の考え方(情報なら)

- コイン投げ30回で1セットとしてシミュレーション
  - 10000回繰り返し  
ヒストグラムにする

<matplotlib.axes.\_subplots.AxesSubplot at 0x7f60c29c2760>



```
import random
import seaborn
```

```
def coin30():
```

```
    x=0
```

```
    for i in range(30):
```

```
        x=x+random.randint(0, 1)
```

```
    return x
```

コイン投げ30回の表の数

```
a=[]
```

```
for j in range(10000):
```

```
    a.append(coin30())
```

コイン投げ30回を10000セット

```
seaborn.histplot(a, discrete=True)
```

ヒストグラムを表示

# 仮説検定 計算による解法

# おいしいと言えるのか

- ある食品についてアンケート

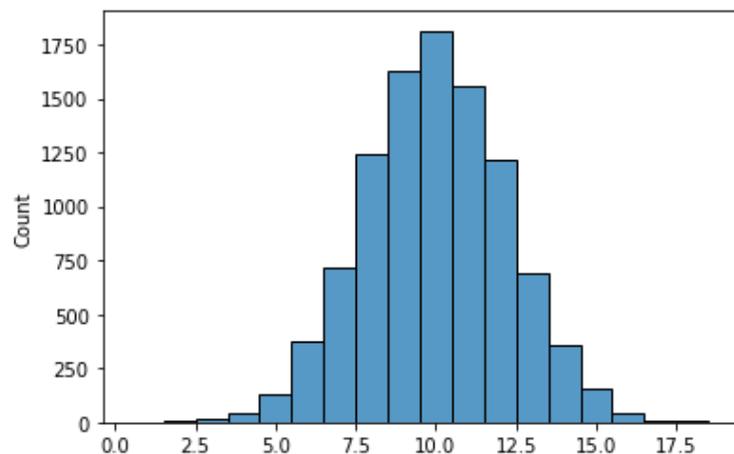
Aがおいしい	Bがおいしい
5	15

- Bがおいしいと結論づけてよいか
- 20人中15人以上が偶然にBを選ぶ確率を求める

# シミュレーションなら

- Pythonでシミュレーション
  - 20回コインを投げて表の数を数える
  - 10000回繰り返す
  - ヒストグラムにする

<matplotlib.axes.\_subplots.AxesSubplot at 0x7f60c24cb520>



- 滅多に起きないようだけど

```
import random
import seaborn
def coin20():
    x=0
    for i in range(20):
        x=x+random.randint(0, 1)
    return x
a=[]
for j in range(10000):
    a.append(coin20())
seaborn.histplot(a, discrete=True)
```

# 確率は計算できる(数学 I 205ページ)

- 反復試行の確率

- 1回の試行で事象Aの起こる確率を $p$ とする。  
この試行を $n$ 回繰り返すとき、  
事象Aがちょうど $r$ 回起こる確率

- ${}_nC_r p^r (1-p)^{n-r}$

- コイン投げで事象Aがちょうど $r$ 回起こる確率

- ${}_nC_r \times \left(\frac{1}{2}\right)^n$

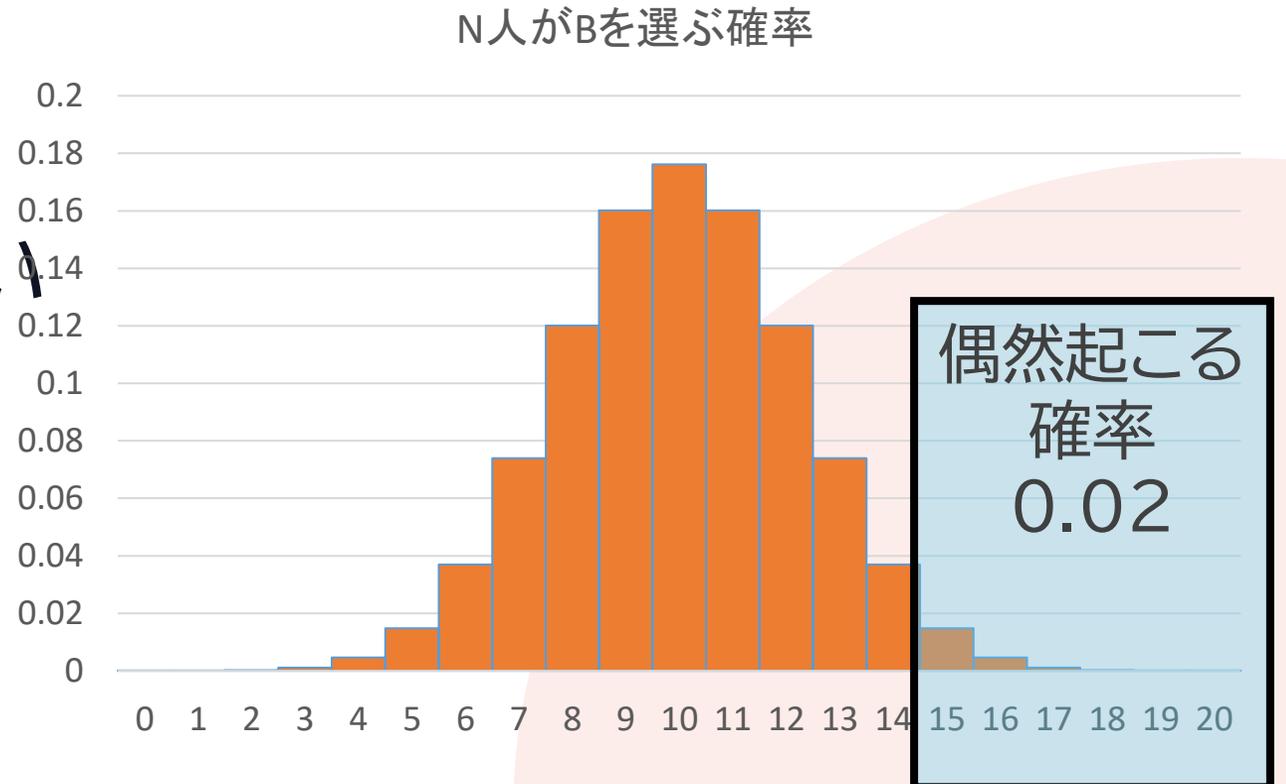
# 確率を計算すると

- Bを20人選ぶ  $\left(\frac{1}{2}\right)^{20} = 0.0000009537$
- Bを19人選ぶ  $\left(\frac{1}{2}\right)^{20} \times {}_{20}C_{19} = 0.0000190735$
- Bを18人選ぶ  $\left(\frac{1}{2}\right)^{20} \times {}_{20}C_{18} = 0.0000181198$
- Bを17人選ぶ  $\left(\frac{1}{2}\right)^{20} \times {}_{20}C_{17} = 0.0010871887$
- Bを16人選ぶ  $\left(\frac{1}{2}\right)^{20} \times {}_{20}C_{16} = 0.0046205520$
- Bを15人選ぶ  $\left(\frac{1}{2}\right)^{20} \times {}_{20}C_{15} = 0.0147857666$

# 確率の合計は

- $0.0000009537 + 0.0000190735 + 0.000181198$   
+  $0.0010871887 + 0.0046205520 + 0.0147857666$   
=  $0.0206947325$

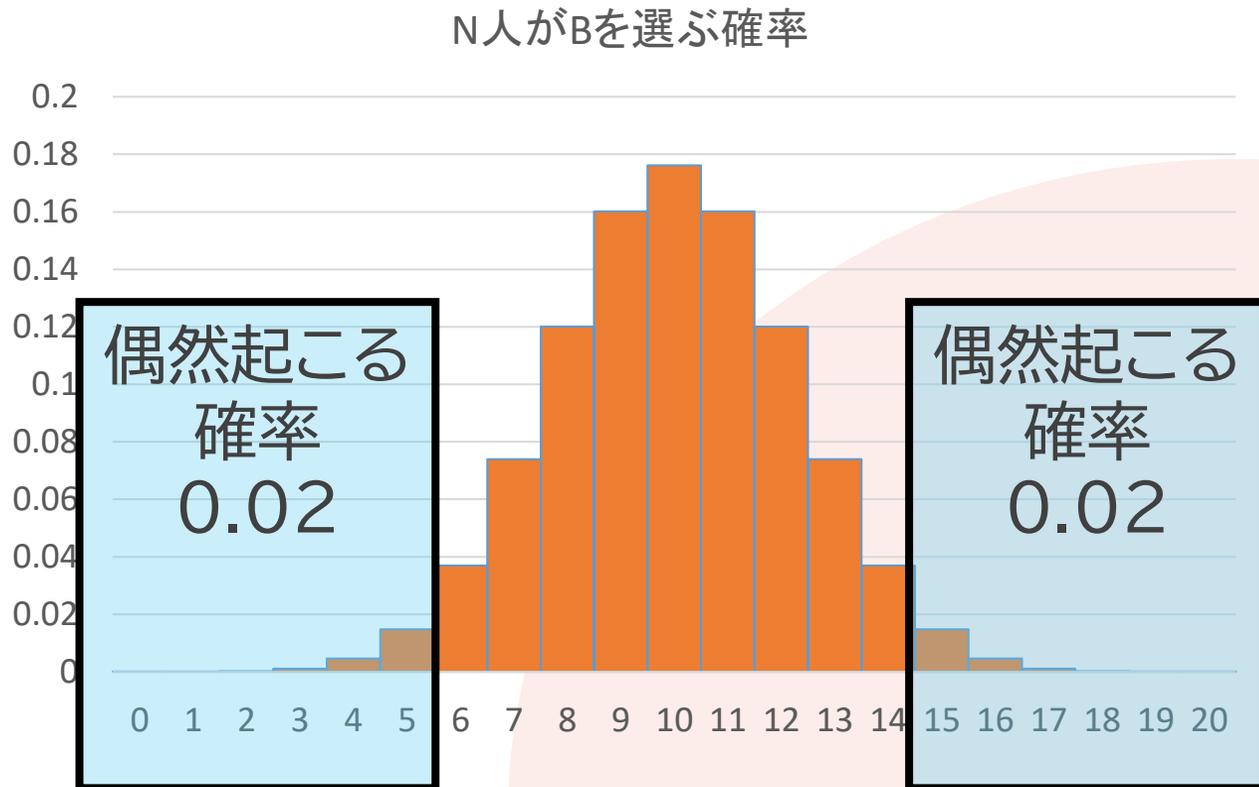
- 2%だから滅多に起きない
- → Bがおいしいと言える



# 一般的に

- 5%未満だと「滅多に起きない」と考える
  - 厳密な1% 緩やかな10%もある
  - 要求される程度で決める
- 片側と両側がある
  - 2%と見るか4%と見るか
  - 予想がある→片側
  - 予想がない→両側

おいしいかな？→予想あり→片側  
差があるかな？→予想なし→両側  
詳細は数学で学んで！



# 仮説検定

- 仮説検定は重要
  - データが有効かどうか
  - 結論を導けるかどうか
- 仮説検定のためには
  - 毎回シミュレーションしないと
  - 確率を求めないと

# js-STARを使ってみよう

- Web上のツール js-STAR
  - js-starで検索(Web版)
- 統計データの分析がサクッとできる

# 1×2表(正確二項検定)

Aがおいしい	Bがおいしい
5	15

# 1×2表(正確二項検定)

- 左上 [1×2表(正確二項検定)]をクリック
- 先ほどのデータを入力

Aがおいしい	Bがおいしい
5	15

# 結果の見方

- 片側確率 0.0207  
→ 2%

	両側検定	片側検定
$\alpha = .01$	ns (p < .005)	ns (p < .01)
$\alpha = .05$	* (p < .025)	* (p < .05)

- 両側検定・片側検定とも  
5% ( $\alpha = .05$ ) で有意(\*)

- 滅多にないこと  
→ Bがおいしい

観測値 1 観測値 2

5	15
---	----

N = 20

Rオプション

区間推定の信頼水準: 0.95

ベイズファクタ: 【パッケージ BayesFactor が必要】

計算!  結果を追加

**結果**

保存 コピー 消去 タブ変換 伸▼ ▲縮

[直接確率計算 1 × 2]

観測値 1	観測値 2
5 (0.2500)	15 (0.7500)

p=0.0207 (片側確率)

	両側検定	片側検定
$\alpha = .01$	ns (p < .005)	ns (p < .01)
$\alpha = .05$	* (p < .025)	* (p < .05)

効果量: g=0.2500

# 2×2表 (Fisher's exact test)

	みかん	いちご
女性	0	5
男性	3	2

# 2×2表(Fisher's exact test) 例題

- みかんといちごのどちらが好きかアンケート
  - 10人の中から3人をランダムに選んだら、女性が0名の確率

$$\bullet \frac{{}_5C_0 \times {}_5C_3}{{}_{10}C_3} = \frac{1}{12} = 0.0833$$

- 計算できるけど

	みかん	いちご	合計
女性	0	5	5
男性	3	2	5
合計	3	7	10

# 2×2表(Fisher's exact test) 例題

- [2×2表(Fisher's exact test)]をクリック
- 表のデータを入力
- 結果を見てみよう

	みかん	いちご	合計
女性	0	5	5
男性	3	2	5
合計	3	7	10

# 結果の見方

- 片側検定で 0.0833  
→ 8%

両側検定 :  $p=0.1667$  ns ( $.10 < p$ )  
片側検定 :  $p=0.0833$  + ( $.05 < p < .10$ )

- 片側検定で傾向あり(+)
- 両側検定だと有意でない(ns)

- 断言はできないが  
その傾向にある

	観測値 1	観測値 2
群 1	0	5
群 2	3	2

N = 10

● Rオプション ●

区間推定の信頼水準: 0.95

ベイズファクタ: 【パッケージ BayesFactor が必要】

計算!  結果を追加

**結果**

保存 コピー 消去 タブ変換 伸▼ ▲縮

[直接確率計算 2 × 2]

	観測値 1	観測値 2
群 1	0 (0.0000)	5 (1.0000)
群 2	3 (0.6000)	2 (0.4000)

両側検定 :  $p=0.1667$  ns ( $.10 < p$ )  
片側検定 :  $p=0.0833$  + ( $.05 < p < .10$ )

連関係数 :  $\Phi=0.436$  (イエーツの補正適用)  
効果量 :  $h=-1.7722$   
(大=0.8, 中=0.5, 小=0.2)

# 2×2表(Fisher's exact test) 問題

- 調査を続け、もう少しデータを増やしてみる
  - 30人の中から10人をランダムに選んだら、女性が2名以下の確率

$$\bullet \frac{{}_{15}C_2 \times {}_{15}C_8}{{}_{30}C_{10}} + \frac{{}_{15}C_1 \times {}_{15}C_9}{{}_{30}C_{10}} + \frac{{}_{15}C_0 \times {}_{15}C_{10}}{{}_{30}C_{10}} = 0.02508745627186407$$

- 計算できるけど

	みかん	いちご	合計
女性	2	13	15
男性	8	7	15
合計	10	20	30

# 2×2表(Fisher's exact test) 問題

- 調査を続け、もう少しデータを増やしてみる
- 表のデータを入力
- 結果を見てみよう

	みかん	いちご	合計
女性	2	13	15
男性	8	7	15
合計	10	20	30

# 結果の見方

- 片側検定で 0.0251  
→ 2.5%

両側検定 :  $p=0.0502$  + ( $.05 < p < .10$ )  
片側検定 :  $p=0.0251$  \* ( $p < .05$ )

- 片側検定で有意(\*)
- 両側検定で傾向あり(+)

- 女性はいちごが好きだと考えられる

	観測値 1	観測値 2
群 1	2	13
群 2	8	7

N = 30

● Rオプション ●

区間推定の信頼水準: 0.95

ベイズファクタ: 【パッケージ BayesFactor が必要】

計算!  結果を追加

**結果**

保存 コピー 消去 タブ変換 伸▼ ▲縮

[直接確率計算 2 × 2]

	観測値 1	観測値 2
群 1	2 (0.1333)	13 (0.8667)
群 2	8 (0.5333)	7 (0.4667)

両側検定 :  $p=0.0502$  + ( $.05 < p < .10$ )  
片側検定 :  $p=0.0251$  \* ( $p < .05$ )

連関係数:  $\Phi=0.354$  (イエーツの補正適用)  
効果量:  $h=-0.8900$   
(大=0.8, 中=0.5, 小=0.2)

# 相関係数

# 相関係数(数学 I 194・196ページ)

- 相関関係

- 2つの変量のデータにおいて、一方が増えると他方も増える傾向が認められるとき2つの変量の間には正の相関関係があるという

- 相関係数

$$r = \frac{(x_1 - \bar{x})(y_1 - \bar{y}) + \dots + (x_n - \bar{x})(y_n - \bar{y})}{\sqrt{\{(x_1 - \bar{x})^2 + \dots + (x_n - \bar{x})^2\}\{(y_1 - \bar{y})^2 + \dots + (y_n - \bar{y})^2\}}}$$

# 相関係数計算 例題

- [相関係数の計算と検定]をクリック
- 表のデータを入力
  - Excelに入力して貼付する方法もある

生徒	数学	英語
1	74	81
2	65	66
3	81	74
4	42	59
5	90	88
6	68	45
7	87	65
8	73	76
9	35	47
10	59	71

# 結果の見方

- どこを見るか
- 相関係数 $r=0.657$

生徒	数学	英語
1	74	81
2	65	66
3	81	74
4	42	59
5	90	88
6	68	45
7	87	65
8	73	76
9	35	47
10	59	71

== Means & SDs (SDは標本標準偏差) ==

N= 10

Var.	Mean	S. D.	Min.
	Max.		
1	67.400	17.107	35.000
2	67.200	13.174	45.000

- Item Selection -

Var.	Mean+SD	Mean-SD
1	84.507	50.293
2	80.374	54.026

Correlation Matrix  
df= 1 & 8

Var1      Var2

# 結果の見方

- 相関係数  $r=0.657$ 
  - 正の相関
- 相関係数は有意
  - 相関があると考えられる
    - +  $P<.10$
    - \*  $P<.05$
    - \*\*  $P<.01$

Correlation Matrix  
df= 1 & 8

	Var1	Var2
Var1	-	0.657 *
Var2		-

Test of Correlation

Var.	r	F	Test
Var1xVar2	0.657	6.07	*

項目1と項目2には中程度の

/// Analyzed by js-S

相関係数 $r$	相関の強さ
$0.7 \leq r \leq 1.0$	強い正の相関
$0.4 \leq r \leq 0.7$	正の相関
$0.2 \leq r \leq 0.4$	弱い正の相関
$-0.2 \leq r \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$-0.4 \leq r \leq -0.2$	弱い負の相関
$-0.7 \leq r \leq -0.4$	負の相関
$-1.0 \leq r \leq -0.7$	強い負の相関

# 結果の見方

- 散布図もできてる



# 結果の見方

- 平均・標準偏差・最大・最小
  - Mean : 平均
  - S.D. : 標準偏差
  - Min. : 最小値
  - Max. : 最大値

保存 コピー 消去 タブ変換 伸▼ ▲縮

== Means & SDs(SDは標本標準偏差) ==

N= 10

Var.	Mean	S.D.	Min.	Max.
1	67.400	17.107	35.000	90.000
2	67.200	13.174	45.000	88.000

- Item Selection -

Var.	Mean+SD	Mean-SD
1	84.507	50.293
2	80.374	54.026

Correlation Matrix  
df= 1 & 8

- 標準偏差(数学 I P188)

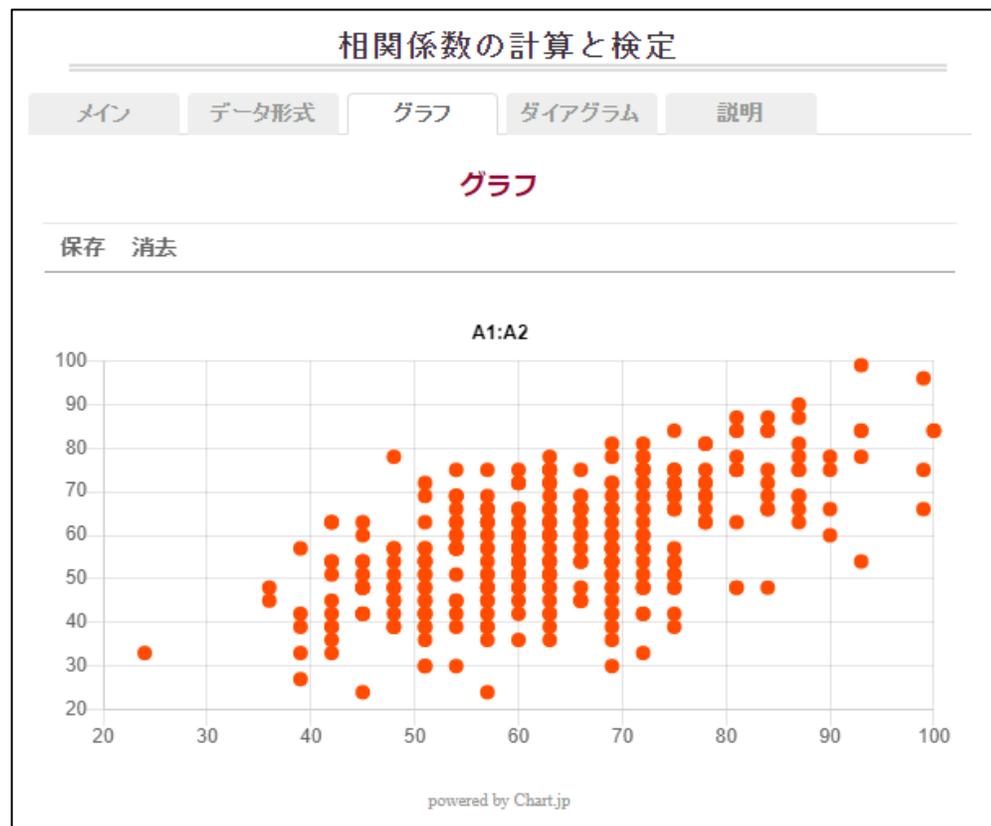
$$s = \sqrt{\frac{1}{n} \{ (x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + \dots + (x_n - \bar{x})^2 \}}$$

# 相関係数計算 問題

- 情報 I のページ第4回から[ダミーデータ]ダウンロードして開く
- データをコピーしてjs-STARに貼り付ける
- 相関があるか調べてみよう

# 結果の見方

- 318人分の相関係数
- 相関係数  $r=0.581$
- 正の相関



Correlation Matrix  
df= 1 & 316

	Var1	Var2
Var1	-	0.581 **
Var2		-

Test of Correlation

Var.	r	F	Test
Var1xVar2	0.581	161.18	**

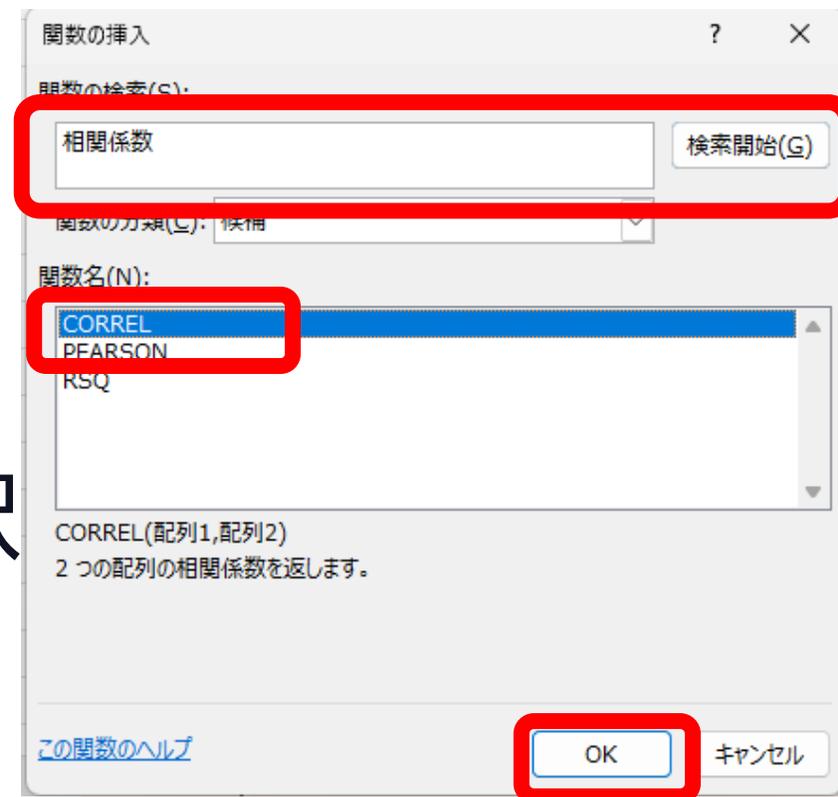
項目1と項目2には中程度の関連があります。

/// Analyzed by js-STAR ///

# Excelでもできる

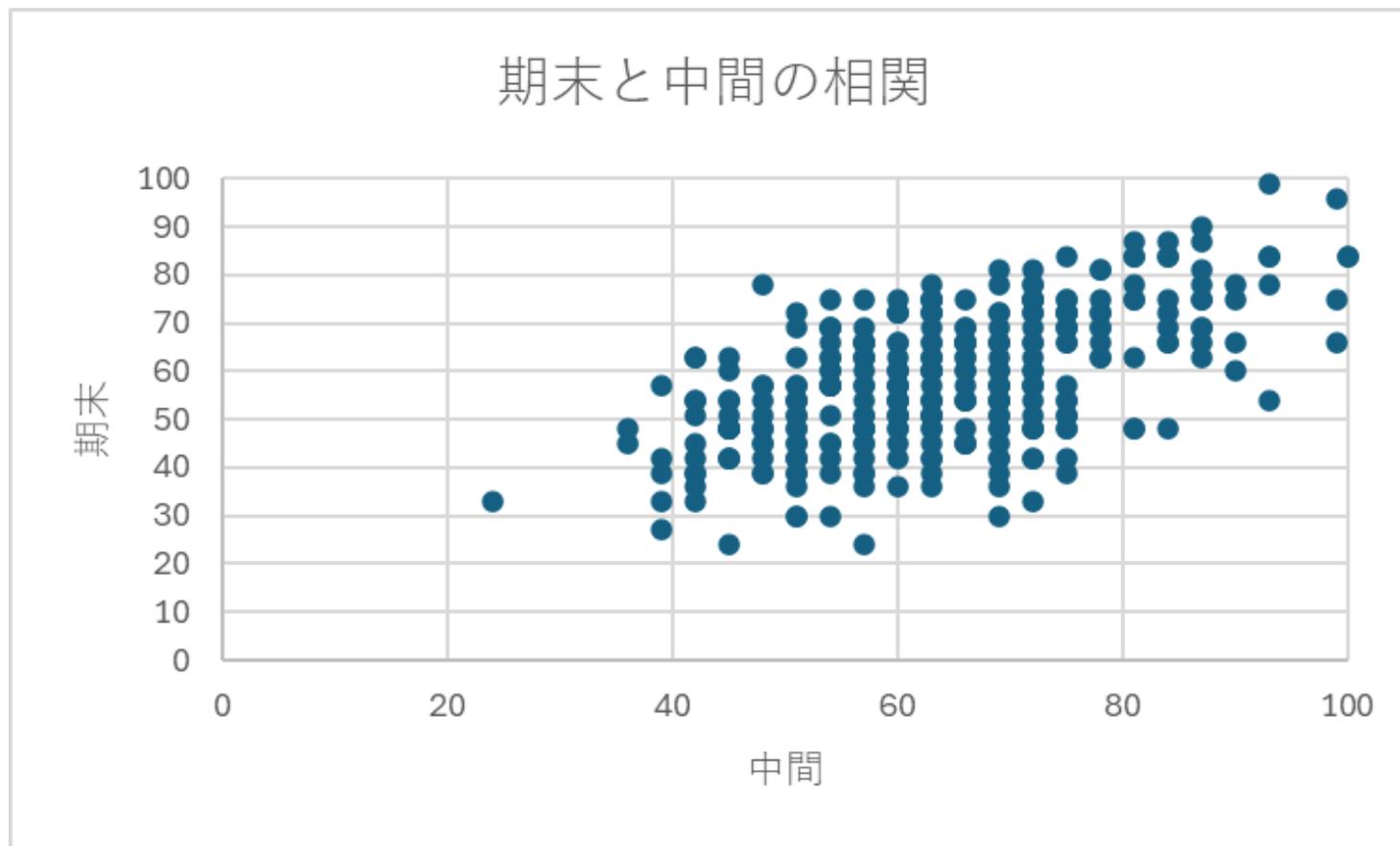
1. セルD2をクリック
2. 左上[fx]をクリック
3. [相関係数]と入力し[検索開始]
4. [CORREL]をクリックし[OK]
5. B列のデータとC列のデータを選択
6. [OK]をクリック

	A	B	C	D
1	番号	中間	期末	
2	1	51	42	0.581189
3	2	72	54	
4	3	63	51	



# Excelでもできる

- 散布図も作れる



# Excelでもできる

- 平均・標準偏差・最大・最小
  - 平均 AVERAGE
  - 標準偏差 STDEV.P
  - 最小値 MIN
  - 最大値 MAX

C	D	E	F	G	H
			中間	期末	
42	0.581189	平均	64.11006	58.46226	
54		標準偏差	13.58379	13.93325	
51		最小値	24	24	
51		最大値	100	99	
48					

# 情報 + 数学

- データがあれば情報 + 数学の手法
  - データの有効性を示すことができる
    - 相関係数・標準偏差・仮説検定
  - データをわかりやすく伝える事ができる
    - ヒストグラム・箱ひげ図・散布図
    - 円グラフはやめよう
- 探究をPPDACで
  - データに基づき事実を語る

